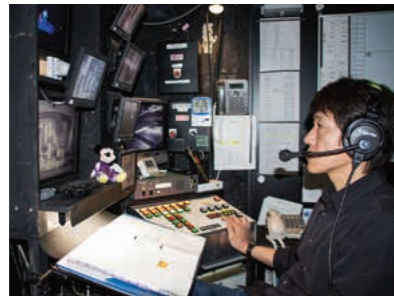


## 17:30 ソワレ開演

舞台袖にある舞監卓に座り、古城は俳優や舞台装置全体の動きを見ながら吊物装置や舞台装置などの転換のキュー出しをする。舞台をあらゆる角度で映し出す8つのモニターがあり、シーンごとにそれを見ながら安全確認を行う。進行状況を見ながらキュー出しの最良のタイミングを判断する一方で、頭の中ではあらゆるトラブルを常に想定しているという。一部の装置が動かないなどの事態が発生したら、瞬時に他の装置や俳優の動きを考え、対応しなくてはならない。

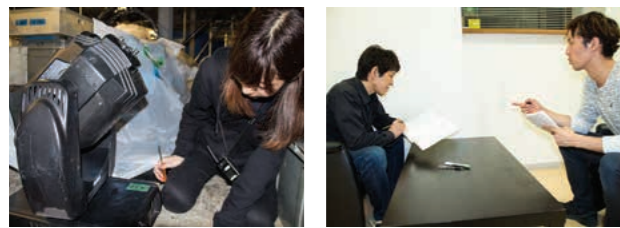


## 20:30 終演後

本日2度目の公演を終えると、今度は技術スタッフ全体でのミーティングが行われる。

その後、田守は調子の悪いムービングライトを修理するため奈落へ。本番中ライトに異常が認められると幕間に予備と替え、交換したライトはできる限り自分たちで修理を行う。

一方、古城はダンスキャプテンを務める俳優の草場有輝とあたり(※5)の打ち合わせをしていた。本番前や本番後、限られた時間のなかでどのシーンの稽古を行うか決定するのだ。※5あたり……本番中の立ち位置や動線、振りや歌などの確認をする稽古。



## 21:30

こうしてふたりの1日は終了。「スタッフたちで水炊きでも食べに行こう!」と元気なふたりに、それぞれやりがいと技術の道を目指す人へのメッセージをきいてみた。

田守「本番中はもちろん緊張もしますが、自分の操作する光を見られるので、楽しさもありません。俳優の動きや、調光、ピンスポット、ムービングライトがばっちりあうと、気持ち良いです。とくに『ピーアワゲスト』などでお客様が楽しんでいる様子を見ると、嬉しくなりますね」

古城「とにかく神経と頭を使う仕事です。私自身あまり知識もなく中途採用で入った身です。もういい歳だとか、何も知識がないとかでこの世界に入ることを躊躇している人もいますが、何かを始めるのに遅すぎるなんてことはないと思います」



## 11:30

リハーサル室で行われる俳優ミーティングに古城も参加し、前日の上演時間などを報告する。終わると、コンビニで買ったカレーを片手に、再び事務作業。



## 12:00

一方、朝チェックを終えた照明スタッフたちもお昼の時間に。この日の田守はお弁当を持参していた。外食の時間がないためご飯は自炊派とコンビニ派に分かれるらしい。



『美女と野獣』照明チームは6人編成。全員女性! 平成生まれ!

ここまでが、本番が始まるまでの彼らの日常。本番中はどうのようなことをしているのだろう。今日は昼夜2回公演のある日。マチネは田守、ソワレは古城を追ってみた。

## 13:00 マチネ開演

調光オペレート(※3)を務める『美女と野獣』照明チーフ・金子ゆかりの隣に座り、田守はムービングライトのオペレートを行う。金子の「GO」というキュー出し(※4)に合わせ、金子と田守は同時に照明の動作がプログラミングされた調光卓のキーを叩く。万が一インカム故障などのトラブルがあっても、ふたりの動作のタイミングは合わせなくてはならない。また、状況に応じて金子が意図的にキューをずらすときもある。田守はそれも察知し、合わせる必要がある。ふたりの息の合った動きが魔法を作り出す鍵だ。さらに、どんなに入念なチェックを行っても、本番中は突如球が切れたり色が微妙に違ったりすることもある。そんな時こそ腕の見せ所。進行に合わせて卓のオペレートをしつつ、同時に手動で微調整を行い、そうしたエラーにも対応するのだ。現場では常に臨機応変な判断が求められるため、日々勉強だと田守はいう。

※3調光…照明光などを調整すること。※4キュー出し…タイミングを知らせること。



照明のキュー出しの回数はなんと370回! 四季の作品の中でも多い方。



# 福岡公演技術スタッフ 密着レポート

いよいよ8月28日(日)に千秋楽を迎える『美女と野獣』福岡公演。まさに「魔法」と称するにぴったりのこの舞台を作り出しているのが、舞台監督をはじめとする総勢30名の技術スタッフたちだ。今月号では、舞台監督と照明スタッフのとある1日に密着した。

今月の発売日  
京都公演  
京都劇場  
6日

技術の現場より  
vol.7  
『美女と野獣』

## 9:30



舞台上に着くと、すでに舞台スタッフたちの姿が。担当セクションごとに分かれてミーティングでその日の予定確認などを行う。



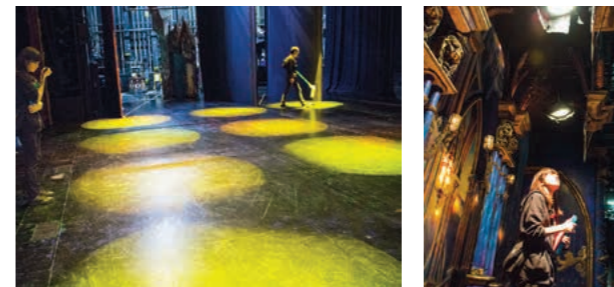
## 10:00

スタッフルームに戻った古城はパソコンでメールチェックと事務作業を始めた。11月からの京都公演に向け、福岡公演の撤収、京都公演の仕込みの工程やそれに伴うスタッフの移動・宿泊スケジュールなどを組む必要がある。このような公演計画をたてるのも舞台監督の仕事だ。



壁に貼られたスケジュール。休演日まで予定が埋まっている。

一方、舞台上では、照明の朝チェックを行っていた。舞台の照明に異常がないか確認する。暗い中での作業。安全に気を配りながら、丁寧に手際よくチェックしていく。昨日正常に動いていたから大丈夫、という保証はない。灯体(照明)の向きなど、普段と異なる箇所はないか見落とさぬように進める。



ムービングライト(左)、お城の照明(右)を確認する田守。

## 朝 マンション出発

マンションから出てきたのは入団2年目の照明<sup>たもりなつき</sup>・田守夏季。福岡での生活は約4ヵ月。今はムービングライト(※1)のオペレートをしているが、以前は『アラジン』のピンスポット(※2)を担当していた。今回初めてのひとり暮らし、機材もいちから覚えるものばかり。大変なことも多かったという。※1ムービングライト…コンサートなどで主に使われる、動く光を演出するライト。※2ピンスポット…狭い範囲の人、物、場所に限定して照明を当てるためのライト。



## 9時すぎ

劇場到着。ほどなくして舞台監督・古城博之も到着した。スタッフを束ねる古城は若いときから舞台の仕事一筋かと思いきや、昔はアートディレクターとしてグラフィックやCM制作の仕事に就いていたという。普通なら管理職になるかという年齢で、舞台に関わる仕事をしてみたいと劇団四季に飛び込んだ。平面や映像の世界から、立体



でライブの世界へ。食欲にいろいろなことを吸収してきた。古城は着到板を返すとすぐに支度を済ませ、朝の舞台スタッフミーティングを行う舞台上へと向かった。スタッフは昔でいえば黒衣。皆、黒い服が仕事時の戦闘服だ。